平成２２年度日本財団助成事業

特別支援学級に通う児童への
暴力防止プログラム開発および提供事業

実施報告書

特定非営利活動法人
エンパワメントかながわ

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

エンパワメントかながわの皆さんの活動に寄せて

海老名市立わかば学園　園長　諏訪利明

「子どもたちに『安心』を伝えたい」

メンバーの皆さんから、最初にその話を聞いたときに、恥ずかしながらあまりピンとこなかったのが、正直な感想です。それくらい身近な暴力の存在が認識できていなかったのだと思います。自分が小さかった頃はそんなことを考える必要もなかったし、ましてや自分が教わったことなどなかったので、余計に理解できなかったのかもしれません。

　しかし、彼女たちに刺激されて社会を見回してみると、今の子どもたちの置かれている現状は、昔よりもはるかに危険なことを認めなければなりません。自分の名前を悪用されないように、名札をひっくり返して学校に通う子どもたち。見知らぬ大人に声をかけられたら逃げましょう、と教わる子どもたち。以前なら子どもたちを守ってくれた地域のつながりがどんどん希薄になっていく一方で、知らずに暴力に巻き込まれる可能性は、昔よりはるかに高くなっているのです。

　さらに身近な人たちからの「暴力」も。虐待の被害者になる子どもたちの痛ましいニュースは、以前よりも頻繁に報道されるようになったと感じるのは私だけではない、と思います。こういう時代だからこそ、転ばぬ先の杖ではないですが、子どもたち自身にとっても、自分の身を守ることについて、「安心」について考えることが非常に大切になってくるのだと思います。

　エンパワメントかながわの皆さんが子どもたちに伝えたいと熱く願うその気持ち。メンバーの皆さんと話していると、それはそれは強く、ひしひしと伝わってくるものでした。しかし、そこにはひとつのジレンマがあり、その思いが強ければ強いほど、果たして自分たちのパフォーマンスの中で、ちゃんと伝えることができていたのかどうか？重要なことだからこそ、きちんと伝えたいのに、それは形になっていたのだろうか？子どもたちにわかりやすく伝えるためには、どのような手段を取るべきだったのか？等々、いろいろな疑問がわき起こっていました。子どもたちとの実践の中で、自分たちの思いが、子どもたちのハートにさらにしっかり届くにはどうしたらいいのか、私が彼女たちに出会ったのは、彼女たちにとって、まさにそんな試行錯誤の真っ最中だったような気がします。

　「視覚的にすること」「流れを整理すること」「簡潔にまとめること」「選択するなど参加できる形にすること」等々、意味を伝わりやすくするために、いくつかのアドバイスをさせていただきましたが、話し合いの中で互いに意見を出し合いながら、プログラムはどんどんすっきりとした形にまとまっていきました。もちろんきっとこれからも、出会う子どもたちに合わせて、プログラムは改良されていくことと思います。でも今は、とりあえず彼女たちの背中を押すことができたということ、そして、彼女たちがそのプログラムの中で、少しずつ手ごたえを感じ始めていることが非常にありがたいと思っています。

　これからもエンパワメントかながわの皆さんの活動を応援していきたいと思っています。

【目次】

１．　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

２．事業の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

３．事業の内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

（１）特別支援学級の通う子どもたちへの暴力防止プログラムの開発
　［１]プログラムの開発および検討
　［２］資料・グッズの開発および作成

（２）特別支援学級に通う子どもたちへの暴力防止プログラムの提供

４．実施報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

（１）実施一覧
（２）プログラムの子どもたちの理解度・効果についての調査
　［１]目的
　［２]方法
　［３]結果
　　アンケート結果（抜粋）
　　ほっとプログラム　１日目アンケート
　　ほっとプログラム　２日目アンケート
　　ほっとプログラム　３日目アンケート
　　保護者の感想
　　教職員の感想

５．事業を実施して　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

（１）エンパワメントかながわの取り組み
（２）ほっとプログラム
　（特別支援学級に通う子どもたちへの暴力防止プログラム）の開発
（３）プログラムを実施して

（４）今後の課題

６．参考資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

（１）案内文
（２）アンケート用紙

１．はじめに

　すべての子どもたちは、一人ひとり違ったとてもすばらしい力を持っています。

　「わたしはとても大切な存在」「わたしはいつもあんしんしていい」「いやなことやこわいことがあったとしても、わたしはわるくない」という思いを実感してもらいたい…

　「特別支援学級に通う子どもたちへの暴力防止プログラム」（ほっとプログラム）は、子どもたちが「あんしん」して自分の力が発揮できるように実践してきました。

　プログラム開発・実施には、海老名市立わかば学園園長の諏訪先生からのアドバイスと、実施校の先生方との話し合いが欠かせないものでした。さらにワークショップ後には１回ごとに先生方と振り返りを行ない、子どもたちの様子やクラスの状況を聞くなどして、子どもたちにより伝わりやすくするということを第一に考えてすすめてきました。

　本事業でのワークショップで出会った子どもたち、先生方と作り上げた時間は、私たちにもあらたな気づきとなりました。

　本報告書では１年間の取り組みと結果を報告し、このプログラムの効果と必要性をまとめました。

平成２３年３月
特定非営利活動法人エンパワメントかながわ

２．事業の目的

発達のつまづきや生育環境により、暴力にあいやすいといわれている特別支援学級に通う児童、生徒を対象に、安心できる環境下で子どもたちによりきめ細やかな配慮をした暴力防止プログラムを開発し「あなたは大切な存在であること」「いつもあんしんして生きていく力があること」を子どもたち一人一人に実感してもらうために、ニーズに応じて視覚、聴覚、動きなどの表現方法や具体的な理解につなげるための「グッズ」を制作し、学級の状況により柔軟に対応できるプログラム（＊ほっとプログラム）を提供する。

また、子どもたちの日常の支援者である教職員や保護者の方たちに働きかけ、プログラムの趣旨を共有し、協力体制をとることでプログラム実施時だけでなくプログラム終了後日常の生活の中でも継続して子どもたちの「あんしん」が保障され、力が発揮できる社会環境を整えていく意識を啓発していくことを目的とする。

*ほっとプログラムとは

すべての子どもたちは、暴力を受けずに生きていく権利を持っている「大切な人」である。特別支援学級に通う子どもたちが、いじめ、知らない人からの声かけ、いやなさわり方など身近な暴力から自分の「あんしん」を守るために「いやだ」と言うことなどを具体的に練習する。スタッフによる寸劇、パネルなどの視覚的教材を使ってわかりやすく、楽しく進めていくワークショップ形式の暴力防止プログラムである。

３．事業の内容

（１）特別支援学級の通う子どもたちへの暴力防止プログラムの開発

［１］プログラムの開発および検討

「あんしん」という抽象概念に特化し、子どもたち一人ひとりにわかりやすく伝えられる効果的なプログラムを検討、開発し、スタンダード化する。

◇ 開発ミーティング（9 回　参加人数　延べ５５人）

- 今年度目標・方針・昨年度振り返り
- プログラム開発・内容検討
- アプローチ校の検討

◇ 研修（年 3 回）　講師　海老名市立わかば学園　諏訪利明園長

- 発達のつまづきについて、子どもたちの様子
- プログラムの検討
- １年間の活動のまとめ、今後の課題

◇ その他各学校の実施に向けての対応の検討、練習会の開催

［2］資料・グッズの開発および作成

様々なつまづきを抱えた子どもたちの一人ひとりの理解につなげるために、視覚的、聴覚的なグッズ・パネルの作成、からだを動きや作業の検討をした。

工夫したところ	グッズ
①視覚	あんしんパネル、あんしんくん、いやだパネル、 あんしん・いやだシートなど
②聴覚	歌、寸劇、スタッフの話し方など
③動き	あんしんポーズ、いやだポーズ、にげる、はなれる
④作業	パネルから選ぶ、シールを貼る、ポーズをする、 寸劇に参加、歌を歌う、あんしんボードを書くなど

① 視覚　キーワードとなる文字や絵をパネル化する

・大きな文字での情報「あんしん」
・にこにこ笑っている顔　（色での対比：赤）
・「あんしん」を象徴する絵「あんしんくん」
・胸の前で手を交差し、ほっとして安心している状態を絵で表す

・大きな文字での情報「いやだ」
・いやな表情の顔（色での対比：青）
・「いやだ」という意思を表す絵
・手を突き出したポーズで「いやだ」を絵で表す

②　聴覚　話し手の声のトーンや速度、歌や劇を使うなど、耳から入る情報を効果的に取り入れる

・はっきりとわかりやすい言葉を選び、ゆっくり話す
・「あんしん」などのキーワードは何度も繰り返す
・「あたま・かた・ひざ・ぽん」の歌を歌って自分のからだの名前を伝える

③　動き　　言葉と連動した手の動きや、簡単な自己防衛の練習など、からだを動かす

・「あんしん」のポーズ、「いやだ」のポーズ
・パネルの絵をモデルにしながら言葉と連動した手の動き

・「あんしん」でいられる距離を実際に離れて体感する
・「いやだ」と感じたら声を出しながら走って逃げる

④ 作業　　パネルから選ぶ、シールを貼る、書くことを通じて、自分の「あんしんボード」を作る
劇や歌など参加する

・すきなくだもの、あんしんな場所、あんしんな人などをパネルからえらび、選んだもののシールを自分の「あんしんボード」に自分で貼っていく

・シールや書き込みで自分の「あんしんボード」に自分の「あんしん」を増やしていく。

・スタッフの演じる劇を通じて実際の状況をモデリングとして視覚や聴覚で理解することができる。また参加することで自分のできることを実際にやってみることができる

（２）特別支援級に通う子どもたちへの暴力防止プログラムの提供

暴力にあいやすいといわれる子どもたちに、「あなたは大切な存在」であるということ、「あんしん」を守る力があるということ、そのためにできることを伝える。

その子どもたちを継続して支援するおとなを増やし、子どもたちが生まれ持った個性をそのまま発揮していける環境であるために、教職員および保護者にプログラムを実施した。

① 教職員へのプログラム提供・事前打ち合わせ（90～120 分）

⇩ プログラム内容、進行、会場設定、配慮する事項などの綿密な打ち合わせ・確認

② 子どもたちとスタッフの顔合わせ

⇩ 自己紹介、授業の様子を参観など

③ 子どもたちへのプログラム提供

⇩ 1 日 45 分×3 日間

④ 保護者の方へのプログラム実施報告・説明会（90～120 分）

⇩

⑤ 教職員との実施後の振り返り、現状報告（90～120 分）

実施後の子どもたちの様子、変化を聞き、再度プログラムのフィードバックを図り、継続、定着を目指す。

［実施例］

ほっとプログラム～特別支援級に通う子どもたちへの暴力防止プログラム～概要

１日目

「あんしん」について

目標：自分の「あんしん」を具体的に実感し、「安心」をとられそうになった時、
「いやだ」と言って「安心」を守ることができる。

活動：１.「あんしん」について　「あんしん」と言う言葉と「安心」のポーズを繰り返す。
２．自分の「あんしん」を実感する手立てとして「あんしん」ボードを作り、
自分の「あんしん」と思うこと
（1 日目「時間」、2 日目「場所」、3 日目「人」など）を増やしていく。
３．ロールプレイを見て「あんしん」を守るために
「いやだ」という練習をする。

２日目

「あんしんな場所」

目標：相手からの「あんしん」な距離を実感し、知らない人から逃げることができる。

活動：１．自分の「あんしん」な場所を選び、「あんしん」ボードの「あんしん」を増やしていく。
２．外で知らない人に会ったときにできることをロールプレイを見ながら確認する。
「はなれる」「おしえない」「にげる」「おとなにはなす」
３．一人ずつ知らない人からの声かけに対してロールプレイ
に参加してにげる練習をする。

３日目

「あんしんな人」

目標：「私のからだは私のとっても大切なもの」であることを実感し、「いやなさわり方」に「いやだ」と言って「あんしん」を守ることができる。「いやだ」と言われてやめることができると、相手も自分も「あんしん」を守ることができる。

活動：１．一緒にいて、「あんしん」な人を選び、「あんしん」ボードの「あんしん」を増やしていく。
２．自分のからだについて考える。
３．「あんしんなさわり方」と「いやなさわり方」について、どんな気持ちになるかロールプレイを見ながら考える。
お互いの「あんしん」を守るために、ロールプレイに参加しながら「いやだ」という練習をする。

４．実施報告

（１）実施一覧

学　校　名	内　　容	実施日	参加人数(人)
横浜市立A小学校	教職員ワークショップ	8月16日、9月27日	3人
	子どもワークショップ	9月1、3、10，17日	11人
	おとなワークショップ	10月4日	8人
B学園	子どもワークショップ	12月8、９、１４日	６人
川崎市立C小学校	教職員ワークショップ	11月26日、2月2日	3人
	子どもワークショップ	12月8、13、16、20日	6人
	おとなワークショップ	12月22日	４人
D市特別支援教育研究会	教職員ワークショップ	1月12日	33人
横浜市立E特別支援学校	教職員ワークショップ	2月1日、17日	7人
	子どもワークショップ	2月4、8、9、10日	6人
横浜市立F中学校	教職員ワークショップ	2月15日、3月16日	2人
	子どもワークショップ	3月2、15、16日	5人

（２）プログラムの子どもたちの理解度・効果についての調査

[１] 目的

ほっとプログラムの内容、グッズの活用、ワークショップの工夫が具体的、効果的に子どもたち一人ひとりに寄り添い「あんしん」が実感できるものとなっているかを、査する。

また、実際の子どもたちの様子に合わせて次回のワークショップに柔軟に対応する。プログラムがより効果的に伝わるように率直な意見や感想を記入してもらい、プログラムにフィードバックする。

[２] 方法

子どもから直接アンケートをとることは難しいため、子ども向けワークショップに付き添った教職員全員にアンケートを記入してもらった。

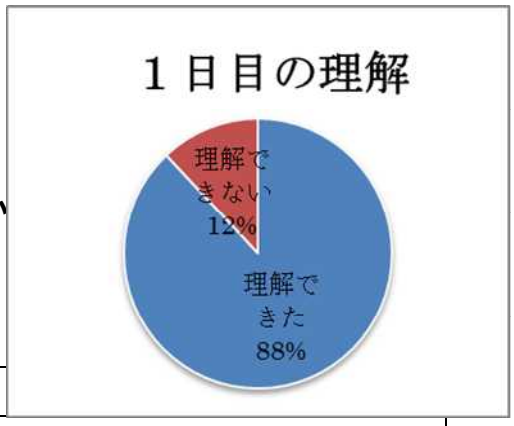
また、保護者や教職員ワークショップに参加した教職員に自由記述にて家や学校での子どもたちの様子や模擬ワークショップの感想を記入してもらった。

[３] 結果

プログラムを実施した６校においてアンケートを実施した。

アンケート結果（抜粋）

【ほっとプログラム　　１日目アンケート】



1. 内容について

①本日の内容は、子どもたちにとって理解できたと思いますか

25 人中　　22 人くらいの子どもが、ほぼ理解したと思う。

②わかりやすかったところは、どんなところでしたか?(抜粋)

・黒板に流れが書いてあり、見通しが持てた。
・お手本の方が 1 番に行い、教員も始めに行った上で一人一人同じ事を聞いてくれて、答えられる内容だったので自信を持って答えていた。
・パネルや絵などがあり、劇もシンプルで「安心」「いやだ」に的が絞られていて、わかりやすかった。
・近くに来て、優しくわかりやすくやり取りをしてくれた。
・シールを貼ったり、聞いたり、答えたりして一人一人の活動が保障されていた。

③わかりにくかったところは、どんなところでしたか？

・6 年生にとって「好きなもの」「楽しい時」のことを「あんしん」と表現することに少し抵抗があったようだ。
・「安心」をテーマに授業を行ったことについて、意義などを理解できたのかわからない。

2. スタッフの話し方（テンポや声の大きさ）、あるいは劇はいかがでしたか？

・優しい口調でゆっくり話す感じがよかった。とてもわかりやすかった。
・子どもたちの発言に共感的に答えてくださっていたので子どもたちが安心して参加していた。
・短く簡潔でよかった。
・劇の内容がシンプルでとてもわかりやすかった。

3. 全体の流れや時間配分はいかがでしたか?

・集中してみていたのでよかった。
・子どもたちにちょうどあっていた。
・本日の流れが提示してあり、時間も長すぎず集中することができた。

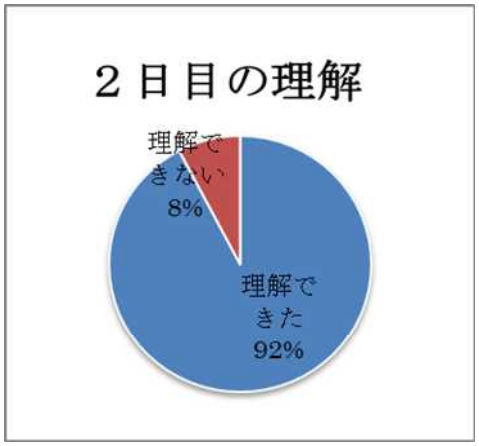
4. パネルやボードなど、グッズの使い方はいかがでしたか?

・視覚的なものが用意されていて、わかりやすかった。
・作業活動が入り、また、自分の意思が絵（言葉）に表れているので興味を持って取り組めたようだ。
・大きくてわかりやすい。
・効果的。特に「安心」「いやだ」の顔のマークは理解しやすかった。

5. その他次回に向けてご意見やご感想をお書きください。

・1 年生は迎えに来た母親に対して「いやだ」というポーズを見せて、学習したことを伝えていた。
・次に移る間とか、グッズに工夫があると助かる。

【ほっとプログラム　　2日目アンケート】



1. 内容について

①本日の内容は、子どもたちにとって理解できたと思いますか?

26人中　　24人くらいの子どもが、ほぼ理解したと思う。

②わかりやすかったところは、どんなところでしたか?(抜粋)

・前日の復習から入ったのでもう一度振り返ることができよかった。
・4つのポイントを一つ一つに分けて示した後短い劇にしたところ。
・劇が、単純な場面設定から増やしていったのでわかりやすかった。
・わかりやすい言葉や絵なども示して説明したところ。
・劇に本人が参加し演じたので『声を出してにげる』ことはよくわかったと思う。
・『はなれる』や一度大きい声を出してみるところなどは体験としてとても大事だと思った。

③わかりにくかったところは、どんなところでしたか？

・「あんしんな場所」を「好きな場所」と捉えている児童がいた。
・「知らない人」という概念がよく把握できない児童もいた。
・「おとなにはなす」のところ・・・言語でコミュニケーションがとりにくい子どもたちが、他者に伝えるその子にあった方法を担任は見つける必要があると感じた。

2. スタッフの話し方（テンポや声の大きさ）、あるいは劇はいかがでしたか？

・ゆっくり丁寧に話していてわかりやすかった。
・子どもたちの発表の場が盛り込んであり、子どもたちは存在が認められていると感じたと思う。
・短く子どもの集中にあっていた。

3. 全体の流れや時間配分はいかがでしたか?

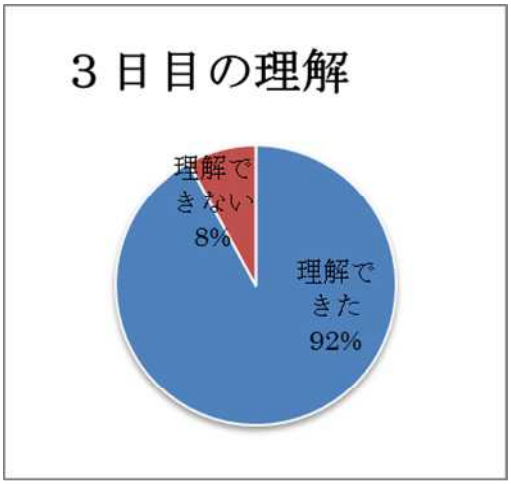
・最後まで集中して参加できた。
・1時間の内容に無理がなかった。

4. パネルやボードなど、グッズの使い方はいかがでしたか?

・視覚的に絵と文字で示されておりわかりやすかった。
・前回の活動を思い出すことにも役立ったと思う。
・パネルの字は見やすい。

5. その他次回に向けてご意見やご感想をお書きください。

・最後の劇で大勢で知らない人に向かっていき、活き活きと参加しているなと感じた。
・いつもは新しい場面になかなか入れない子どもが今日はすんなり活動に入れていた。
・「安心」のジェスチャーがよかったみたいだ。
・1日目、2日目と見ていると子どもたちの意見も人数が多いと「流される」部分があると感じた。



【ほっとプログラム　　3日目アンケート】

1. 内容について

①本日の内容は、子どもたちにとって理解できたと思いますか?

25人中　　23人くらいの子どもが、ほぼ理解したと思う。

②わかりやすかったところは、どんなところでしたか?(抜粋)

・「あんしん」な顔と「いやだ」の顔はよく見ていて理解していた。
・丁寧に小1から中学生までわかりやすく教えていただいたので子どもたちに「NO」という勇気が宿った。
・頭ー肩ー膝ーポンの歌で身体に興味、関心を持たせ、身体は自分のもの、そしてその体について「あんしん」できる接し方といやな接し方があることへの流れはとてもスムーズだった。
・活動の中に動作を取り入れているところが子どもたちは意識しやすかったと思う。
・それぞれの劇の内容がとてもわかりやすかった。特に相手を押したり、くすぐりのときの「いやだ」は子どもたちはよくわかったようだ。
・「安心」の概念が「好き」から広がってきたと思う。

③わかりにくかったところは、どんなところでしたか？

・今日の学習の中のメインの内容をもう少し詳しくできればよかったように思う。
・「私の身体は誰のものか」という概念は抽象的でわからない児童もいたかと思う。
・人の身体に触れることはその人の「あんしん」を奪うことであるということがよく伝わっていない。

２．スタッフの話し方（テンポや声の大きさ）、あるいは劇はいかがでしたか？

・会話が聞き取りやすいテンポだった。
・スタッフの方の演技力に驚いた。
・キーワードがわかりやすい内容の劇だった。

3. 全体の流れや時間配分はいかがでしたか?

・ちょうどよかった。
・前回までの内容の繰り返しが少し長いと思った。

4. パネルやボードなど、グッズの使い方はいかがでしたか?

・見やすくてよかった。
・「あんしんな人」を選ぶ際に提示されたパネルは文字だけでなく絵も一緒にあると選びやすいと思う。
・「あんしんボード」の意味（言葉やシールが増えていくことで自分のあんしんが守られている）わかりづらいように思う。

5. その他ご意見やご感想をお書きください。

・子どもたちの人権意識が高まったと思う。
・「あんしん」「いやだ」のポーズを覚え、日常生活でも使っている子もいる。
・前回の授業の後にある生徒が小学校のときにいじめにあったと話をしに来てくれた。安心できる人に悩みや不安などを相談することはよいことだということが理解できたのかと思った。とても大切な授業になりました。本当にありがとうございました。

【保護者の感想】

・家でも「あんしん」「いやだ」のポーズをつけてやっていけたらいいと思う。
・「あんしん」を知ることから勉強になった。自分の「あんしん」を守るばかりだと相手を傷つけるのではと思っていたが、相手の「あんしん」にもつながると気づいた。
・「いやだ」と言ったときは気持ちを汲み取って「あんしん」を与えるようにしたい。
・子どもの「いやだ」に振り回されているとばかり思っていたけど、実は自分が押し付けてばかりで振り回していたのだとも考えなおしたい。いたのだとも考え、なおしたい。
・ほっとプログラムに参加して、子どもの気持ちに寄り添って、「安心」をもっと増やしていきたいと、心から思った。
・「あんしん」を守るためにということは、考えていなかったのでとてもためになった。
・これからに役立てたい。
・パネルやシールを使ったり、劇などによって子どもたちにもわかりやすかったと思う。
・なかなか危機意識を持つことができない子どもたちにとって「はなれる」「おしえない」「にげる」「おとなにはなす」という方法があることをわかりやすい内容や絵で伝えていただきありがたい。きっと将来役に立つことができると思う。被害が少なくなるようこのプログラムをぜひ続けていってほしいと願っている。
・本人がとても意欲的に参加したと先生から聞いていたのだが、今日実際にプログラムについて拝見することで私自身知ることができてよかった。毎日の生活の中で「あんしん」について触れていきたいと思う。また、本人は悪気がなくても「いやだ」と思われることはしてはいけないことがあることを教えるためにも「いやだ」についておしえられると思った。
・丁寧に説明していただいたので話の内容がよく理解できた。演劇形式に参加させていた。
・友達のために一緒に「いやだ」と両手を突き出して楽しそうだった。

【 教職員の感想】

◇振り返りより

・「あんしん」という言葉は抽象的な言葉だが、3 回プログラムを実施したおかげで「あんしん」がクラスの共通語になった。
・今回のプログラムの内容を単発で終わらせないために、「安心」が子どもたちに根付くようにしたい。学級経営に活かしたい。
・まず自分の「あんしん」を感じ、表現できることが大事だと学ぶことができた。そのあとで気持ちを調整したり、相手の気持ちを意識したり、と自分の「あんしん」を守り、相手の「あんしん」を守ることにつながればいいと思う。
・教育的には、「いやだ」という言葉はよいほうにとらないことが多いが、本当は大事な言葉、いっていい言葉、大事にしなければと思った。
・いやだ」と言おうね、という指導しかしていなかったが、その前に、「今、あんしん」かなと、確認しながら指導していきたい。
・迎えに来たお母さんに「あんしん」「いやだ」を伝える姿を見た。子どもたちに伝わっていると思う。
・子どもの中の引き出しの一つとして「安心」を使っていきたい。

・言語でコミュニケーションをとりづらい子どもたちが他者に伝える方法を担任は見つける必要があると思う。その一つとして、この「あんしん」「いやだ」という言葉、ポーズ、あんしんボードは使いやすく、活用していきたい。
・子どもたちだけでなく、ワークに参加した教師自身が子どもたちへの言葉や気持ちの受け取り方がかわった。
・私たちが思っている以上に学校や友だちが「あんしん」な場になっている子どもがいたとワークショップ中の発言で気づいた。
・子どもたちが「あんしん」について意識するとてもよい機会になったと思う。生活の中で悩んでいる様子が見られたときなどには話をしていけたらいいと思う。

◇ アンケートより

・表情豊かな劇で、大変わかりやすかった。表情が「あんしん」マーク、「いやだ」マークとよく結びついた。
・劇や気持ちのカードの提示があり、とてもわかりやすかった。役になる時は衣装をかえるのがよかった。
・「あんしん」がわかっているからこそ「いやだ」といえる。「いやだ」ということで自分の「あんしん」が守られる。とても大切なことではっとした。子どもたちに伝えたい。
・「いやだ」といえる安心感。「いやだ」と言われたとき気持ちに折り合いをつける＝人の「あんしん」をとらないで自分の「あんしん」を守ること。
・絵、カード、身振りなどが効果的でわかりやすかった。子どもの気持ちを尊重することの大切さがわかった。ただ、社会は必ずしも「あんしん」な場所だけではなく、「いやだ」という状況もあると思う。そんな時でも自立して生きていかなくてはならないこともある。そのためにも、「いやだ」ということ、気持ちの折り合いをつけることが必要だと思った。
・自分の命、他人の命、社会とのかかわりなどを考えていくと「いやだ」という言葉は とても難しい言葉だと思う。特別支援の子どもたちの個別性と社会性と、もう一度よく考えてみたいと思う。
・「あんしん」という言葉、キーワードがとてもわかりやすく、いいやすい言葉で、合言葉になりそうだと思う。

５．事業を実施して

（１）エンパワメントかながわの取り組み

エンパワメントかながわでは、平成２１年度に、障がいや生育環境により、暴力にあいやすい状況におかれている子ども達に伝わりやすい暴力防止プログラムを提供した。自らにも「あんしん」して生きる権利があること、そして、自分に自信を持って生きていいということを伝えるために、表現方法の工夫、日ごろ指導に携わっている職員、教員の方々と協力し、子どもたちが安心してプログラムに取り組める環境作りを重点に置きながら CAP プログラムを実施してきた。だが、CAP プログラムで伝える子どもの権利の概念である「あんしん」「じしん」「じゆう」が抽象的であり、伝わり方が不十分な場面があり、伝える難しさということを実感した１年であった。

（２）ほっとプログラム
（特別支援学級に通う子どもたちへの暴力防止プログラム）の開発

前年度の実践を踏まえ、プログラムには不可欠な要素である子どもの権利の概念をいかにわかりやすく伝えていくかを検討し、海老名市立わかば学園諏訪利明園長にアドバイスをいただいた。その結果、今年度は情報をしぼり、特別支援学級の子どもたちに「あなたは大切な存在」「あなたには力がある」ということを一人ひとりに少しでも確実に伝えるために「あんしん」だけに特化したプログラムを開発した。また、子どもたちのニーズに応じて視覚、聴覚、動きなどの表現方法や具体的な理解につなげるための「グッズ」の制作等の工夫改善を行ってきた。

「あんしん」は、人が生きていくうえでのすべての土台になっている。「あんしん」に生きていくということは、食べる、寝るといった生きていくのに必要なものがあり、怖いことが何にもないという状態である。「あんしん」があってはじめて、自信を持つこと、そして自由に選ぶことがあると私たちは考える。「あんしん」を実感する、守っていくということは生きていく権利を獲得することにつながる。

「あんしん」を自分自身のものにするため、3 日間のワークショップを通して「あんしん」という抽象的概念を言葉としてではなく、実際に体験し「わたしはとても大切な存在」で

あるということを十分に実感できる「認められる時間」を提供することで、最後は自分にとって「あんしんする人」を実感して考えることで、ひとりではない、人と人との肯定的なつながりを体感していくことを目的とした。

「あんしん」は「人権意識の確立」、それを脅かす暴力を防止していく「力」になる。「あんしん」が実感できるからこそ、その「あんしん」を守るために「いやだ」と言えるのではないかと私たちは考える。

また、子どもたちの理解の助けとなるよう様々なグッズの作成をした。「あんしん」「いやだ」のシンボル化し、ポーズを繰り返すことで、『教師が「あんしん」「いやだ」という言葉を発するとそのときのポーズをする子がいる』とアンケートにもあったように、言葉での理解につまづきのある子どもたちにも理解でき、自ら表現できる手段として活用できた。

また、あんしんボードを作り、一人ひとりに手渡したことで、子どもたち一人ひとりの活動を保障し、子どもたちのペースで「あんしん」を実感する支援ができたと考える。

（３）プログラムを実施して

このプログラムを実施するにあたり、何よりも大事なことは先生たちとのワークショップの共通理解と、協力という環境である。

実施した学校の先生方とも、ワークショップ前のプログラムについての説明、子どもたちがあんしんして参加できる環境（例えば.顔合わせを経て、ワークショップに入る、名前の書き方、呼び方など)を細かく打ち合わせた。

ワークショップ中は子どもたちを中心に、言動、行動、全てを尊重し認めることを、スタッフはもちろん、先生たちも実践していくことで、「認められる」「あんしん」な時間を実感できた。先生を巻き込んでいくプログラムとは、プログラム作り・ワークショップ・振り返りの繰り返しであり、さらに継続のために、６ヵ月後１年後と支援体制を作っていく必要があるだろう。私たちの目指すものは、プログラムの実施ではなく、このプログラムを実施した後、子どもたちを支援するおとなたちの協力のもと、日々の生活の中でプログラムが活用され、継続してもらうことによって、子どもたちに「あんしん」な気持ち、「わたしは大切な存在」という実感が定着していくことだと考える。そのため、ワークショップ終了後、毎回

アンケートを先生に書いていただき、次につなげる振り返りを行う。よりわかりやすい伝わりやすいワークショップにするために、すぐに先生たちの言葉、思いが反映できる体制を心がけた。

また、プログラム実施後も１ヵ月後をめどに先生たちと振り返り、経過報告をする時間を設け、子どもたち、先生に「あんしん」をフィードバックしていけるようにした。この先生との信頼関係こそが、このプログラムを実施するのに不可欠であり、ワークショップ終了後のプログラムの継続につながることだと痛感している。

同じように子どもたちを支える保護者とも、プログラム実施後報告会と称して、プログラムの内容、ワークショップ中の子どもたちの様子を伝え、家庭での子どもたちの様子や変化を伝えてもらうという、共通理解の機会を作っている。

子どもを中心に家庭と学校が共通理解し、同じように対応していくことが、このプログラムを定着しやすくしていくために何よりも大切だと考える。

（４）今後の課題

このプログラムを開発し実践し、日々忙しく教育活動をしている教職員の方たちに趣旨を明確に理解してもらい、より子どもたちに寄り添うプログラムに対応していくためには、膨大な時間が必要だということを実感した。また、今現在このプログラムを必要としているたくさんの子どもたちのもとへプログラムを実際に届けるためには、まずこのプログラムの趣旨を多くの支援者の方に伝えていくことが必要であることも痛感した。

今後はより多くの方に知ってもらうための周知の方法や紹介の方法を模索しながら、プログラムの実施にいたるまでの教職員の負担の軽減を図り、このプログラムをたくさんの方たちに届けることができるよう活動していきたいと思っている。発達につまづきがある子どもたちを社会に適応させるのではなく、子どもたちが生まれ持った個性をそのまま発揮していける社会に変えていけることこそ、私たちの願いである。

特別支援学級に通う児童への暴力防止プログラムの開発および提供事業
担当　緒方智子

６．参考資料

（１）案内文

平成 22 年　月　日

各位

NPO 法人エンパワメントかながわ
理事長　阪口さゆみ

「特別支援学級に通う児童への暴力防止プログラム」のご案内

日頃より私どもの活動に、ご理解とご協力を誠にありがとうございます。

さて、ＮＰＯ法人エンパワメントかながわでは、日本財団より 2010 年度助成金の交付を受け、特別支援学級での暴力防止プログラム（正式事業名：「特別支援学級に通う児童への暴力防止プログラムの開発および提供事業」）を実施することとなりましたので、ご案内申し上げます。

ぜひ、ご活用いただけましたら幸いです。なお、お申込みのご依頼順で締め切らせていただきますので、ご質問・お問い合わせは、下記事務所までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

日本財団　「特別支援学級に通う児童への暴力防止プログラム」

内容：　①子ども自身の自尊感情を高め、暴力から身を守る具体的な方法を伝えます。
②おとな（保護者・教職員・職員など）に対して、子どもたちが安心して自らの力を発揮し成長できるよう具体的な支援方法を伝えます。

対象：　特別支援級等の児童およびその学校教職員と保護者

実施校：　県内５校

実施方法：　①　障がいのある子どもへの暴力防止プログラム提供：
学校側ご担当者とお打ち合わせのうえ、児童に適した方法で暴力防止のプログラムを提供します。
※通常1日 90 分間での実施を分割し 3 日間各 45 分間にして実施する。

②　保護者への暴力防止プログラム提供：　所要時間　90 分～120 分
③　教職員への暴力防止プログラム提供：　所要時間　90 分～120 分

料金：　1校　１０，０００円　（子ども向け、教職員向け、保護者向け共通）
※事前打合わせ・スタッフ交通費・消費税を含みます）

講師：　エンパワメントかながわスタッフ（各回 3 名）

実施期間：　平成 22 年度（平成 23 年 3 月末まで）

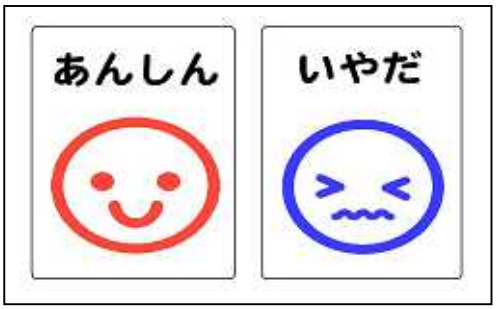
日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

ＮＰＯ法人エンパワメントかながわ事務所
☆かながわＣＡＰみらくる☆
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-9-22-701
ＴＥＬ：045-323-1818（月・水・金 10 時から 16 時）
ＦＡＸ：045-323-1819
e-mail:　kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp
HP:　http://www15.ocn.ne.jp/~empkng/
担当：緒方・廣野

ほっとプログラム(特別支援級に通う子ども達への暴力防止プログラム)概要

NPO 法人エンパワメントかながわ

ほっとプログラムとは・・・
すべての子どもたちが、暴力を受けずに生きていく権利を持っている「大切な人であること」を伝える暴力防止プログラムです。発達につまずきのある子どもたちが、いじめ、知らない人からの声かけ、いやなさわり方など、身近な暴力から自分の「あんしん」を守るために「いやだ」と言うことを具体的に練習します。スタッフによる寸劇、パネルなどの視覚的教材を使って分かりやすく、楽しく進めていくワークショップ形式です。



＜対　　象＞　特別支援級の子ども
＜実施方法＞　クラス単位(5～10 人)
＜時　　間＞　１時限（45 分）×3 日間
（ワークショップ実施前に
スタッフとの顔合わせを行う）
＜スタッフ＞　各クラス 3～4 名
＜実施形態＞　参加体験型ワークショップ形式
＜実施内容＞

1日目	導入	「あんしん」について	安心という言葉と安心のポーズ
	アクティビティ	「選ぶ」体験	それぞれの安心ボードをつくる(3 日間使用) 好きなくだもの、好きな時間をそれぞれ選ぶ
	寸劇	「あんしん」を守る	安心をとられそうになったときには「いやだ」といってもいい
	体験	「いやだ」という練習	一人ずつ自分の安心を守るために「いやだ」という練習をする
2日目	導入	「あんしん」な場所	それぞれのあんしんな場所を選ぶ
	寸劇	知らない人からの声かけ	知らない人と会った時にできること はなれる　おしえない　にげる　おとなにはなす
	体験	「にげる」練習	一人ずつ知らない人からの声かけに対して「にげる」練習をする
3日目	導入	「あんしん」な人	一緒にいて安心な人を選ぶ
	アクティビティ	からだについて	「あたまかたひざぽん」を歌い、自分のからだについて考える 自分のからだは自分だけの大切なもの
	寸劇	あんしんなさわりかたと いやなさわりかた	お互いの「あんしん」を守る 4 種類の友だち同士のさわりかたについて、どんな気持ちになるか考える
	体験	「いやだ」という練習	一人ずついやなさわりかたに対して「いやだ」という練習をする

（２）アンケート用紙

（教職員向け）

ほっとプログラム　　日目アンケート

この度は、「特別支援学級に通う児童への暴力防止プログラムの開発および提供事業」（ほっとプログラム）の実施にご協力をいただき、誠にありがとうございます。お忙しい中恐縮ですが、次回以降の提供に活用させていただきたいと存じますので、以下のアンケートに忌憚のないご意見をお聞かせください。

１．内容について

①本日の内容は、子どもたちにとって理解できたと思いますか？

人中　　人位の子どもが、ほぼ理解したと思う。

②わかりやすかったところは、どんなところでしたか？

③わかりにくかったところは、どんなところでしたか？

２．スタッフの話し方（テンポや声の大きさ）、あるいは劇はいかがでしたか？

３．全体の流れや時間配分はいかがでしたか？

４．パネルやボードなど、グッズの使い方はいかがでしたか？

５．その他、次回に向けてご意見やご感想をお書きください。

ありがとうございました。ＮＰＯ法人エンパワメントかながわ

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

ＦＡＸ送信先：０４５－３２３－１８１９

（教職員向け）

ほっとプログラム振り返りアンケート

この度は、「特別支援学級に通う児童への暴力防止プログラムの開発および提供事業」（ほっとプログラム）の実施にご協力をいただき、誠にありがとうございました。お忙しい中恐縮ですが、次回以降の提供に活用させていただきたいと存じますので、以下のアンケートに忌憚のないご意見をお聞かせください。

１．プログラム実施後（1 回目ワークショップ以降）子どもたちの様子や言動に変化は見られましたか？

２．プログラムの内容を子どもたちは日々の生活の中で活用していますか?

３．一人ひとりの子どもたちに何か発見があったら（ワークショップ中、ワークショップ後）、教えてください。

４．ほっとプログラムですが、これからの生活に活用できそうですか?またどのように活用しようとお考えですか?

ありがとうございました。ＮＰＯ法人エンパワメントかながわ

ＦＡＸ送信先：０４５－３２３－１８１９

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

（保護者向け）

アンケートご協力のお願い

本日は、NPO 法人エンパワメントかながわ･ほっとプログラム報告説明会にご参加いただきまして、本当にありがとうございました。
ご意見、ご感想などをどうぞ自由にご記入ください。
よろしくお願いいたします。

ご記入いただきました内容は、事業の目的以外には使用いたしません。

ご協力ありがとうございました。

NPO 法人　エンパワメントかながわ

発行：特定非営利活動法人エンパワメントかながわ

〒221-0835　横浜市神奈川区鶴屋町 2-9-22-701
FAX ： 045-323-1819 TEL：045-323-1818
Ｅ－Ｍａｉｌ：kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp
ＨＰ：http://www15.ocn.ne.jp/~empkng/

2011 年 3 月発行